

# Lutone...

ルトネ  
2024  
春  
No.004



特別な想いの側に  
匠の技と輝きを

大分刑務所編

Lutone...

No.004

独特な書き心地と  
美しさを愉しむ

母犯防止

さながら美術品 息をのむほどの輝き

パソコンやスマートフォンが当たり前となった日常において、筆やペンをもって何かをしたためる機会が減ってしまった。名前を聞けば何となくイメージはできる。しかし、手書きへの習慣やこだわりがあるか、デザインや物書きを生業とする方でない限り、意外となじみのない存在なのかもしれない。

”ガラスペン“

それは、ペン先にインクを浸してから筆記する「つけペン」の一種である。起源には諸説あるが、一九〇二年（明治三十五年）に、風鈴職人の佐々木定次郎によって考案されたとされている。日本で作られたガラスペンは、その美しさはもちろん独特の心地よい書き味とインク持ちが良いなどの機能性から、瞬く間に世界中に広まっていった。

大分県大分市 “大分刑務所”

美術品といっても過言ではないその繊細な輝きが、刑務所の中でも生み出されている。刑務所作業製品を通して繋がる刑務所と地域社会。携わる人達の思いに触れるため、大分へ向かった。

# 刑務所製のガラスペン

大分刑務所でのガラスペン製作では、摂氏800度〜1000度に熱し加工する軟質ガラスが用いられている。高温の材料を取り扱うため、安全衛生管理の観点から作業専門官による確かな指導に併せ、手先の器用さなど受刑者にも一定程度の技能が要求される。

刑務作業において、ガラス加工製品の存在自体が珍しく、グラスなどにデザインや模様を施すことで完成する製品こそいくつか存在するが、実は、原材料のガラス棒を溶かしながら、一から製品を形成していくガラス加工は、全国でも大分刑務所唯一のものである。

十数年前頃から、トンボ玉（ビーズ様のガラス細工）の製作を導入しており、発展的な試みとして、ガラスペンの製作に

着手したのがこの始まりである。

繊細なデザインのガラスペンは、加工にも高度な技術を要し、一定程度の質のペンを1本製作できるようになるまでに、3年程度を要し、場合によっては最後まで作れないままの者もいるという。

試行錯誤を繰り返し、高められた技術。現在では、大分市のふるさと納税の返礼品にも採用していただいている。

大分刑務所の一角にある工場の中に入ると、担当する受刑者が真剣な顔つきで黙々と作業を行っていた。

輝く火の先に、彼らが何を思い、何を見つめているのか。

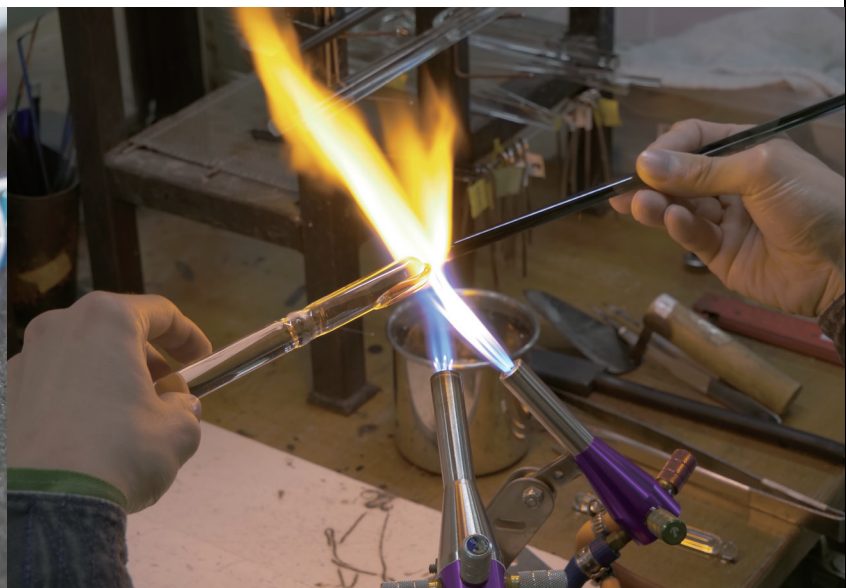
傍らでは、生活指導・作業指導に携わる刑務官・作業専門官が静かに見守っていた。



## 大分刑務所

大分市南西部に位置  
収容定員一四〇〇名の  
刑事施設

九州で二番目に規模の大きい施設であり初めて罪を犯した、短期刑と長期刑の成人男性受刑者を主として収容する。



# 「ものづくり」は「人づくり」

受刑者に作業指導などを行うこの仕事（作業専門官）に就いて、約五年になります。

実は、この仕事に就く前に営業職をしていましたが、「人に教える仕事」に携わりたいという夢がどうしても諦められず、この職業にたどり着きました。

一般企業と異なり、予算や施設運営上の制約から計画をすぐに実行するのは難しいこともありますが、社会情勢やニーズに合わせた知識を付与するという点は、今後も工夫を続けていきたいですね。

新しい取り組みとして、製品のデザインやパッケージのアイデア

を出し合うミーティングを彼らだけでやらせたりしているのですが、機会を与えれば意外と意見は出るんですよ。きっと彼らなりに色々考えながら作業をしているんだと思いますし、ほかにも他人を思いやる言動や、失敗したことをすぐに報告してくる姿を見たときには、彼らの成長を感じます。

これからの作業においては、自分たちで考えることが非常に大きな意味を持つことになります。

山本五十六氏の言葉にもありますが、ちゃんとヒントを与えて行動させ、その結果を評価してあげることが大切だと思います。



後藤作業専門官

教育は財産！が信条のバイタリティあふれる若手のホープ。

「作業は苦役としてやっているのではありません。社会復帰の際に、必ず何らかの助けとなります。成功体験を通じ、スキルも人としても成長していったほしいと思います。」

## 希望の光は**成功体験**の中に チャンスは必ずある。地道が大切です。



後藤看守部長

人情味あふれる正義感の強い人。何か人の役に立つ仕事がしたいと思ってたところ、知人からの紹介でこの道へ。「彼らには、刑務作業を通じて仕事の楽しさ、仕事をできる喜び、人との関わりを学んでほしいです。」

受刑者の生活指導や作業指導に携わって十九年目になります。

彼らと同じ空間で過ごしていると、受刑者同士でも、率先して高齢受刑者のことを気遣ったり、他人を思いやった行動をとったりする場面を多々見ることがありますが、そんな時に、彼らは社会生活の中で「ボタンの掛け違い」をしてしまったけども、根本は自分と何も変わらない同じ人間だなと思わせるんです。

彼らには、生活指導や作業指導だけでなく人間関係づくりの助言やアンガーマネジメント教育もしますが、その指導に素直に共感し、行動に移している場面を見たときに強くやりがいを感じます。

ガラス加工製品の作業は、他の作業に比べて自由度が高く、裁量が入りやすい作業で、これからの新しい制度下での刑務作業でも、重要な役割を持ち続けたいと思います。

新製品の開発に向けて作業専門官と彼らがミーティングし、一緒に知恵を出し合ったりもしますが、製作者と検品係が複数名でチェックして、彼らが納得いくまで修正をして製品にしているので、どれもいい製品ばかりだと自負しています。

今学んでいることは、社会復帰した際に、必ず役に立つことだと思うので、チャレンジ精神をもって色々な経験を積んでほしいと思います。

社会では建設関係の仕事をしていました。

東日本大震災の後一年ほどはとても忙しかったが、その頃から自分の行動がうまくいかなくなっていく、一人で悩むことが多くなり事件を起こしました。

被害者には大変申し訳ないことをしてしまいました。また、家族や大切な人に迷惑をかけてしまいました。

被害者への被害弁済のことも含めて、出所後は、罪と向き合っていくことが大切だと思っています。

刑務作業では、主にガラスペンの製作を行っています。ガラス細工は、ニーズに合った色合いやデザインを考えることが難しく、次はもっといい製品を作って、購入者に喜んでもらいたいと自分なりに勉強をしています。



## 受刑者Aさん

「出所後はとにかくまっとうな人間になりたい。」と、日々の受刑生活を過ごしている。



ガラスペンはふるさと納税の返礼品にもなっており、使っていた方がいい方が多くいることはうれしいことです。が、刑務所の受刑者には悪いイメージを持っている人も多くいると思います。それでも一生懸命に向き合い、使ってもらえる製品を作りたいと思っています。

ガラスペンは綺麗ですし、見た目も良く、文房具なので実用性もありますので、少しでも多くの方に手に取って、使っていただきたいですし、そういうものを作りたいと思います。

出所後は、家業の手伝いをしたいと思いますが、迷惑をかけた分、一生懸命に働きたいと思っています。

感謝と謝罪の思いがめぐりますが、とにかく出所してからの自分の行動で、受刑生活を支えてくれた方々に感謝の念を伝えたいと思っています。

## 受刑者の思い

事件を起こす前は、スーパーの店員や飲食業、工務店などの仕事をしていました。十六歳から働いていましたが、接客が好きでした。

事件を起こしてしまったのは、家族との関係が悩み、そのストレスの発散が原因です。私がやったことは取り返しがつかないことですし、被害者の心の傷は、私が心を入れ替えても癒えるものでもないと思っています。

被害の弁済は、被害者の気持ちを蔑ろにして、自分が償いたいという思いだけです。

ことは間違いだと思っていますし、私の犯罪で、一生苦しまなければならぬ人を生んでしまったということを思えば、私がしたことは、謝罪や弁済するだけで簡単に済まされることではないことだと認識しています。

ガラスペンを作ることで、私がしてしまったことが許されるわけではありませんが、刑期中は、この作業に一生懸命取り組みたいと思っています。そして、一人でも多くの人にガラスペンの良さを知ってもらいたいと思います。



## 受刑者Bさん

「出所後は、被害者のことを忘れずに謝罪の仕方を考えなければならぬし、迷惑をかけた人への恩返しをしたい。」と、日々の受刑生活を過ごしている。

手書きだからこそ

伝わることってありますよね

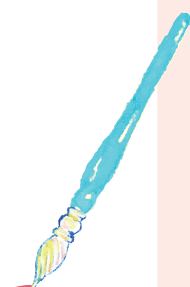
## 「ガラスペンとの出会い」

五年前くらい前に大分刑務所の矯正展に行ったことがあって、そのときに、ガラス玉を購入させていただきました。初めて刑務所で作ったガラス製品を手にとったとき、まさか刑務所で受刑者が作ったものとは思いませんでした。

そのときから、刑務所でガラスペンが作られていることは何となく知っていましたが、その後、友人からのプレゼントでガラスペンを手に入りました。



ネイリスト 内野さん  
大分市でネイルサロンを経営



## 「ガラスペンを使ってみて」

字を書くことが好きなので、手紙とか、日ごろから何でも書くときに使っちゃいますね。

ガラスで作られているので、ペン先が引っかけたりそうだなと思っていましたが、そんなことはなくて、スムーズにすらすらと書いて驚きました。

市販のガラスペンも使ったことがありますが、市販品にも全然負けてなくて、ハイクオリティだと思いました。

重さもちょうど良くて、握り心地も良く、一筆一筆しっかり書ける感じが好きです。

## 「ガラスペンを手にして思うこと」

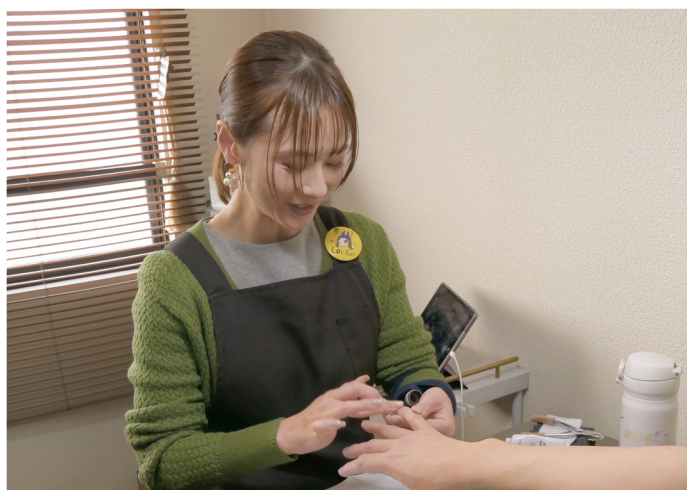
ガラスペンを手にして、まさに職人技という感じで、この技術に誇りをもってほしい。

素晴らしい技術だと思いますし、刑務所の中だけで終わらせるのはもったいないので、社会に出てからも何らかの形で活かしてほしいと思います。



## 爪の印象を変えるサロン A%【エーパーセント】

大分県大分市王子南町5-27  
ユナイテッドクリエーションビル310  
【営業時間】10:00~21:00 【定休日】毎週水曜日



## 大分市役所 商工労政課



井田 参事補



宇佐 美主査

選んでいただいた方々のご感想としては、「風情があっている」「書き心地がいい」「見ているだけで癒やされる」「作成していただいた方々にとってもとても喜んでいただくとお伝えいただきたい」「など、喜びの声を多くいただきます。我々もうれしく思っております。こういった声が、製作者の皆さんへ伝わって、励みになれば幸いです。」

今回、取材していただいたことを通じて、製作までには相当な時間や労力を要していることを知ることができました。そういった背景事情なども踏まえつつ、新たなアピールを展開していけるのではないかと思っているところです。

良い製品を作るために引き続き頑張っていただけだと思います。

# 社会とのつながり

・利用者からの温かい声・

豊後大野市協力のもとお話をいただいたのがご縁です。

大分刑務所でガラスペンを製作していることは聞いていましたが、実際に見てみて驚きました。とても素敵ですし、本当にいいものだと感じます。

こだわりもあってきちんと作られているものだと思いますし、実際、返礼品として選ばれている方の中には、プレゼントや記念品として手に取っていただいている方もいらっしゃいます。

## 大分市ふるさと納税返礼品

### ガラスペンセット ペン置き付

(令和元年12月から採用)



※ひとつひとつ手作りの為、仕上がりが写真と多少異なる場合がございます。

## 編集後記

丹精込めて作られたガラスペンは、社会と繋がって温かな声が寄せられ、更生へ向かう者の気持ちとそれを見守る者の熱い思いも相まって、ひとときを輝きを放っているように見えた。

繊細さと豪華さ、力強さと脆さを併せ持つそのさまは、人間の本质と重なる要素があるように思える。

「手に取ってくれる人のことを思って・・・」

そのひたむきな姿勢の先にあるものをこれからも見守っていきたい。



お問合せ先

大分刑務所

大分県大分市畑中5-4-1

TEL:097-546-3153(作業担当直通)



# Lutone...

2024・Spring  
No.004

ルトネ 春号

— 取材協力 —  
大分刑務所

— 取材先 —  
大分刑務所  
\*大分市役所  
\*爪の印象を変えるサロン A%

— 企画・取材・編集 —  
福岡矯正管区成人矯正第二課  
大分刑務所

— 発行 —  
**福岡矯正管区**  
〒813-0036  
福岡県福岡市東区若宮5-3-53  
TEL:092-661-1138(直通)